

障害等級と日常生活におけるコミュニケーション活動(場とレベル)の具体的状況例

3級の欄の音声言語機能のレベルに該当すれば3級と判定する。
 3級の欄の項目が可能でも、4級の欄のレベルであれば4級と判定する。

※ それぞれの項目について、できる場合は(○)を、できない場合は(×)をご記入下さい。

障害等級	コミュニケーションのレベル コミュニケーションの場	理解面	○ ×	表出面	○ ×
3級	本人 ↓↑ 家族	本人や家族の名前がわかる。		本人、家族の名前が言える(通じる)。	
		住所がわかる。		住所が言える(通じる)。	
		日付、時間がわかる。		日付、時間、年齢が言える(通じる)。	
		部屋の中の物品を言われてわかる。		欲しい物品を要求できる(通じる)。	
		日常生活動作に関する指示がわかる。(風呂に入って、STに行つて、薬を2錠飲んで…)		日常生活動作に関連する訴えができる(通じる)。(窓を開けて…)。身体的訴えができる(通じる)。	
4級	本人 ↓↑ 家族 周辺	問診の質問が理解できる。		病歴、病状が説明できる(通じる)。	
		治療上の指示が理解できる。(PT、薬の飲み方…)		治療上のことについて、質問ができる(通じる)。家族に内容を伝えることができる。	
		訪問者の用件がわかる。		訪問者に用件を質問できる(通じる)。用件を家族に伝えることができる。	
		電話での話がわかる。		電話で応答できる。家族に内容を伝えることができる。(いつ、誰、何、どこ)知り合いに電話をかけて用件を伝えることができる(通じる)。	
		尋ねた道順がわかる。		行先を言える(通じる)。道順を尋ねることができる(通じる)。	
		おつかいができる。(どこで、何を、いくつ、いくら、誰に、いつ)		買物をことばでできる(通じる)。(何をいくつ、いくら)	
	家族以外の者から、日常生活動作について、質問されたり、指示されたりしたときに、理解できる。		家族以外の者に、日常生活動作に関することを説明することができる。		
【特記事項】					

令和 年 月 日

医師氏名

印